



左：バド・アンチョ市の中心部。雨が降った直後だけ緑が現れる。右：家庭菜園にする場所をくわなどで耕し、野菜栽培ができるように手伝うプロジェクトのメンバー。



バド・アンチョ市を訪れたスタディツアーの参加者が、家庭菜園プロジェクトを見学。



**AMDA社会開発機構 ホンジュラス事務所
山田留美子(やまだ・るみこ)さん**

青年海外協力隊、経済市場調査員としてボリビアへ。2011年から現職で母子保健、青少年育成事業に携わる。「安全な食べ物は心身の健康の源です。それを自宅で作ることができるようにしたい」と思い、この案件を立案しました。多くの家庭で水道がなく、川や井戸から水を汲んでいる状況の改善にも取り組みます。

野菜が食べられるようになったという声も寄せられている。JICA ホンジュラス事務所は何度も現地を訪問し、プロジェクトのさらなる広がりを目指している。たとえば事業を円滑に運営するため3か月に1回、G

家庭菜園の普及はこれまでAMDA社会開発機構が取り組んできた分野とは異なるため、自然に近い伝統的な農法の普及を進めている現地NGOのG・GUIAと協力して事業を行っている。今、当初の目標を超え、約160の世帯で野菜作りが行なわれている。栽培している野菜の種類は20種類近くにのぼり、バナナやパイナップル、マンゴーなどの果樹を育てている家庭もある。「家族全員で取り組むことや、地元で安く手に入る堆肥、家庭用洗剤で作った除虫剤などの使用を推奨しています。お金をかけずに体にいい野菜や果物が食べられると好評です。食べ慣れない野菜も多いので、ピーマン、ズッキーナなどおいしく食べられるレシピも紹介しています。子どもたちが、これまで苦手だった野菜が食べられるようになったという声も寄せられている。

「ホンジュラス事務所や専門家、海外協力隊など、JICAの持つ高い専門性と経験から多くのことを学び、事業に生かしています。当地域は乾燥地帯で年々水不足が厳しくなっているため、長期的には水源の保護が必要です。さらにわたしたちが啓発してきた焼畑農業の禁止が市の政策に導入予定です。今後もJICAや地域の方々の協力関係を密にして活動していきます」と言う山田さん。この地域で取り組まなければならないことは、まだまだたくさんある。

動したので、今回もすぐに協力が得られスムーズに事業を始めることができました」と、当時をふり返る山田さん。



栄養のことを学びます

上：家庭菜園での野菜の育ち具合や手入れの仕方などをモニタリングする山田さん(奥から2人目)。下：村を回り、バランスのよい食事をとることの大切さを人々に知ってもらう啓発活動も行う。

家庭菜園普及事業が市の施策となる

家庭菜園の普及はこれまでAMDA社会開発機構が取り組んできた分野とは異なるため、自然に近い伝統的な農法の普及を進めている現地NGOのG・GUIAと協力して事業を行っている。今、当初の目標を超え、約160の世帯で野菜作りが行なわれている。栽培している野菜の種類は20種類近くにのぼり、バナナやパイナップル、マンゴーなどの果樹を育てている家庭もある。「家族全員で取り組むことや、地元で安く手に入る堆肥、家庭用洗剤で作った除虫剤などの使用を推奨しています。お金をかけずに体にいい野菜や果物が食べられると好評です。食べ慣れない野菜も多いので、ピーマン、ズッキーナなどおいしく食べられるレシピも紹介しています。子どもたちが、これまで苦手だった野菜が食べられるようになったという声も寄せられている。

GUIAとバド・アンチョ市の市役所、保健所、農家も加わった運営委員会を開いて、昨年、この場にJICAが行っている地方開発のための自治体能力強化プロジェクト(FOCAL)の専門家家が招かれた。このプロジェクトでは、ホンジュラス西部地域の10市から始まり、今では全国すべての市を対象にして、住民参加で自治体能力強化支援を行ってきた。「FOCALの専門家を講師として、自治体の能力向上が地域開発には欠かせないことや生活改善の大切さを学ぶ研修を行い、とても好評でした」。研修をきっかけに地域開発に積極的に取り組む意欲が行政サイドに生まれ、家庭菜園普及事業がバド・アンチョ市の正式な施策として決まった。



小さなスペースだが、野菜の苗をきれいに並べていねいに育てている。

**住民からの信頼を生かす
家庭菜園で
食生活を改善**

中米のホンジュラスで妊産婦や乳幼児の健康を支えるプロジェクトをJICAとともに行ってきたAMDA社会開発機構が、地域全体の食生活を向上させるプロジェクトに取り組んでいる。

案件名 エル・パライス州バド・アンチョ市における栄養改善にむけた家庭菜園普及プロジェクト
2017年8月～2019年12月

Republic of Honduras



ホンジュラス

国名：ホンジュラス共和国
通貨：レンピーラ
人口：927万人
(2017年世界銀行)
公用語：スペイン語

標高1,000から1,500mの山間部が国土の約8割を占め、トウモロコシ、コーヒー、バナナを産する自然豊かな国。一方で、中南米でも最貧国のひとつに数えられ、特に都市部と農村部の所得格差は大きい。



首都：テグシガルバ

もっと大きくなってね

**【認定特定非営利活動法人】
AMDA社会開発機構**

2007年設立。世界の貧困地域で、人の育成や地域開発を通じて暮らしの改善に取り組む。アジア、アフリカ、中南米で、保健、水と衛生、生計向上、農業、青少年育成などの活動を展開。ホンジュラスでは、エル・パライス州の農山村地域で母子保健向上、安全な出産促進、環境衛生分野の、首都テグシガルバでは青少年育成分野の支援活動を行う。



自分が育てた野菜を見つめる女性。木で作った大きなプランターで栽培している。経済的に余裕がなく高価な野菜を買うことができない家庭にとって、家庭菜園は費用もかからず取り組みやすい。

**農家なのに
日々の栄養が偏る**

ホンジュラス南西部に位置するエル・パライス州バド・アンチョ市では、住民のほとんどが農業に携わっている。しかし乾燥地域で水利もよくなく、生産性も低いため、十分な収入を得ることができていない。その結果、農業を営んでいるにもかかわらず、質・量ともに満足のいく食生活を送ることができない状況が生まれている。「2001年からエル・パライス州で、母子保健分野の活動をしてきました。その活動を通して地域の暮らしを目的に当たりにするなか、妊産婦や赤ちゃんだけでなく、全体的な食生活の向上が必要だと強く感じました」と、AMDA社会開発機構の山田留美子さんは語る。地域住民の食事は野菜が少なく、豆やトウモロコシに偏り、ビタミン類が不足しているのだが、健康や栄養の知識に乏しいため改善しようという意識も育っていない。そうした状況に新しい選択肢を加えたいとAMDA社会開発機構が行っているのが、住民が家庭菜園で野菜などを作り、食生活を改善しようという取り組みだ。2016年にJICAの草の根技術協力事業に採択され、翌年8月からスタートしている「JICAとは前のプロジェクトと一緒に活